



第23回 日本抗加齢美容医療学会学術大会 ランチオンセミナー

Medical Beauty Forum 2017

野本真由美スキンケアクリニック 院長

オバジクリニックトウキョウ 総院長

座長 **野本真由美 先生**

- 演題 -

「日本漢方から考えるエイジング」

東京女子医科大学 東洋医学研究所 准教授

演者 **木村容子 先生**

日時 **2017年10月15日(日)**

12:15~13:00

会場 **時事通信ホール 2F**

◆住所

〒104-0061

東京都中央区銀座5-15-8

◆電話番号

03-3546-6606



日本漢方から考えるエイジング

木村 容子 先生

東京女子医科大学東洋医学研究所

漢方医学は、室町時代に日本に伝えられた中国伝統医学を基にして、日本独自の医療体系として発展した。本大会テーマ「にほんにこだわる」立場から、漢方からみたエイジングを考える。中国古典『黄帝内経』には男性は8歳、女性は7歳ごとの成長サイクルが述べられており、男性は32歳、女性は28歳頃に成長のピークを迎える。女性の閉経が49歳と記載されていることから、現代女性とあまり大差がなく、現代にも参考となることがわかる。50歳以降の女性や65歳以降の男性については男女差がなくなり、100歳までの寿命を前提として年代ごとに臓器の機能が衰えると考えられている。

漢方医学では、生命活動を営むエネルギーである「気」が加齢と共に衰えることにより老化が進むと考える。気には、親から受け継いだもの（先天の気）と毎日の食事などから作られるもの（後天の気）とが存在する。老化は特に先天の気との関係が深く、この気は「腎」の機能と関連する。漢方医学の「腎」は西洋医学的な腎臓の機能のほか、体を温めたり、成長・発育・老化、生殖機能、歯・骨の機能などを有する。

ご略歴

平成5年9月	英国オックスフォード大学大学院 修士課程修了
平成12年3月	東海大学医学部医学科 卒業(学士編入)
平成14年4月	東京女子医科大学附属東洋医学研究所 入局
平成20年4月	同研究所副所長
平成22年7月	同研究所准教授